

◎ 連合会・労協Gだより

95年9月のICAマンチェスター大会での協同組合原則の改訂に向けて、15年に及ぶ作業は大詰めに入った。合せて、新たに、「21世紀の協同組合運動のための宣言案」が発表された。

その内容は、朝日新聞(10/29)に岩垂編集委員名で紹介されているように、これまでなじんできた六原則を大幅に改訂するものとなっている。

(但し宣言案にはふれていない。)

92年ICA東京大会で、マルコス会長が、この改訂作業への加盟各組織の討論参加を呼びかけて以来我々は、シコパ世界大会(94/6)、マクファーソン氏を招いたJJCの講演(94/5)、ICAアジア会議(94/7)等の機会に、積極的に、実践をふまえ、示された改訂案を基本的に支持しつつ、発言し、文書提案をしてきた。

10/24チェコ・プラハで開かれたシコパ執行委員会でも、三次案の検討があり、日本からは、

「よい仕事」の大切さについて鍛谷事務局次長が発言、「Good・Work」という言葉が、日本の主張として定着しつつあるという、うれしい報告があった。「じぎょうだん」が国際語になったのに次ぐことだ。

いま「協同」を問う名古屋集会は、大きな成功をおさめることができた。

京都集会から2年半、この間、協同の輪は、二回りも、三回りも大きく、たくましくなって、「人と地域に役立つ、新しい働き方と協同の仕事おこし」を可能とする主体的力量の形成と、21世紀に向けての展望を、参加者が等しく実感できたであろう集会であった。

そして、もう一つのねらいであったICA95年大会への、日本からの問題提起の発信の場となる課題も、豊かな実践と総集約の上に立派に果たした。

中田 宗一郎(労協連合会・専務理事)

◎ センター事業団だより

名古屋での協同集会では、「労働者協同組合入門講座」を担当させて頂いた。質問に答える程度で時間がきてしまい、参加者との直接対話までゆかず、消化不良の感が否めない。集会全体は多彩な運動・事業の集いという意味では本当に大きな広がりを感じることができた。特に、宮本憲一先生の記念講演は2日間の集会を彩る「基調講演」に相応しい内容であった。今後の労働者協同組合運動にとっても励みにしてゆきたい。11月は名古屋集会や神奈川での雇用シンポ以外にも、様々な行事を行っている。センター事業団は第3回代表者会議を11月5～6日に行った。総代会に次ぐ大きな行事で、ここ3年続いている。毎月行う事業所長会議とは異なり、所長以外の職場の代表者の声を聞けるのが新鮮だし、半期の総括と方針討議の場として年度中盤の節目の会議となっている。福岡では17日に「高齢者協同組合の懇談会」が20

団体40人の参加で行われた。九州の生協関係者の参加も多く、新しい協同組合への関心の高さを伺わせると同時に、参加者から「早く具体的な行動をしよう」と実現への強い希望が出されている。藤沢でも「福祉と協同の街づくり集会」が21団体67名の参加で行われた。実際に活動される人の参加が多く、様々な活動実態が語りあわれた。地域での協同を発展させるきっかけとなればと思う。他にもミニ集会や映画の取組が続いている。組織全体としては1月から始まる123運動に向けて準備を行っている。その中で若い事務局員が真正面から全組合員経営に取り組み、成長してきているのが心強い。組織の活性化にもつながっている。無理解からおこる批判もあるが、123運動を旺盛に行い、第2次中期計画へつなげて行きたい。

坂林 哲雄(労協センター事業団・事務局長)